名地の開花の知らせがあ

内

静

夫

年齢に対する意識は変っ

九十歳を過ぎているが、

ていない。暢気なのかア

だ。私自身いつのまにか

ຈຸ

局齢化が進んでいるよう

と考えるのは不遜であ は生きられるだろうなど

なった年齢と同じにな

あと一年で父親の亡く

る。単なる目安として考

、間界は、間違いなく

から後も、かなり寒いと あってか、満開になって が開花した。そのせいも より一週間ぐらい早く桜 古来花と言えば、桜を指 している。今年はいつも 節理正しく動いている。 咲く。気象の方は最近乱 高下が多いが、自然界は かのようにつつじの花が き揃った。 って、アッというまに咲 荒れすると待っていた 桜が終って、春の嵐が

考えもしない。

えも余計な予測などしな

ではないか、いやそれさ

の花がゆっくりと地上に

春風に揺れながら、桜

い方が自然な一生だと思

ホウなのか、あと何年ぐ

らの人生での最高の幸せ

を過ごせることがこれか

いる訳では毛頭ない。

ことが出来るように日々

死を自然に待ち受ける

えるだけで、父親より長

く生きようなどと考えて

らい生きるだろうかとか

化びらの白さが

と言うが、三月 に見えた。寒さ 際立ってきれい 暑さも彼岸まで

倉 朝 の二十日を越し た頃から春の気

鎌

カヤカ

(161)

ていることはかねてから

言われていることであ

のあわれは日本人の美意 けているのである。もの

識の真髄である。 しかし

「色好み」の問題が含ま 「あはれ」には同時に 柳田の慎み深さがそ

区女(匹)

赤 羽

根

龍

うさせたのであろう。し

るが、西の方の

老むさい振舞いと考え

翁舞のことであると

み深い謹厳は老人像に異

のであろうか。柳田の慎 老いの問題は尽くされた

く扱ったことにはならな かしそれでは民俗を正し

い。もちろん折口はその

その源を祖霊として

翁さびを単に悲観的な

日

Haseovato

配が近づいてく

引き締るように 寒さできゅっと 感じる日が何日かあっ た。開いた花が

> れを有難がってあと何年 れないが、かと言ってこ

んでいてもいいのかもし

自閉症啓発

わかげさまで長生きと喜

平均寿命から見れば、

舞い散るような人生のラ う人たちへ自閉症や発達

共に楽しむ「みんなでプ

- 日、逗字市で初めての

の市民が、ウォーキング ラーの青い服を着た60人 ク」が行われ、テーマカ 催し「みんなでウォー 発達障害への理解をアピ を楽しみながら目閉症や 市体育協会を中心に市

逗子で60人が参加 みんなでウォーク ポーツや音楽を障害者と 内の福祉団体が集まりス ストシーンを望むのは警 沢と言うものか。 障害への理解を求める子 体育協会会長は「これか ラシの配布を行った。 所勤務の太田英伸さん を務めた市内の福祉事業 に到着した参加者たち せた歌で交流した。 体験や、音楽演奏に合わ 指導で球技「ボッチャ」の て楽しかった」、東弘之 (35) は「みんなど歩け ウオーキングリーダー ゴールの逗子アリーナ スポーツ推進委員の

症啓発デー」を前に4月

4月2日の「世界自閉

いうところで止まってし 翁の「わび」とを結びつ 達点である「日本文学の まった。だから翁論の到 いう形をとって現れると 翁と媼あるいは尉と姥と 発生序説」で「あわれ」と わらないのである。

日本の文学の伝統の中 折口信夫=「新潮日本 文学アルバム」より

108円

時代になって「自分の欲

の翁の鎮魂の舞いに尋

と年経て洗練された心の をとなえ、老いの気後れ

ね、老若の対立が現れる

1部

い」になっていき、そこ

出した折口ではあるが、 とした侘びた境地」を見 れ」につながる「しみじみ 本美の真髄である「あわ 誇りとたゆたいの間に日

学よりも折口学に深い関

心を示すのは、折口に性

や日本人の深層心理を問 上げた。現代の民族学者 性の問題を積極的に取り ことをよく知っており、

題にする人々が柳田民俗

に立った、寂しい物言 望と、他人の思惑との間

から日本文学の「あわ

翁の源流をたずね、まれ き着きながら、 びととしての祖先神に行 いう発想がある。折口は を感じることができると には好色な者ほどあわれ 祖先神は くものだ」と簡単に済ま がらも、「これなどはち 取の翁の長歌に言及しな け、その次に万葉集の竹 ょうど老いを尚ぶと、老 いを卑しむとの中間を行 に、その根源から流れて ことは、日本文化の底流

(3)

のがある。

しかし、それで本当に

民俗学に性の問題が抜け

の翁論には性の問題が抜

な」と言う。そこで老翁

(神奈川歯科大名誉教授)

性児眠る

宴たけなけ

祖の墓

鵠沼桜が 藤 辻岡 玉縄市堂岡

多蒼喜柳

『夜の路地に湯を浴

の問題なのである。柳田

私が言っているのは性

論は折口学の中心にある

べきものであるのに、彼

を開いていったという折 れ」の世界に一つの境地

ったと思うのである。 み深い老人像の呪縛があ 私は彼のもまだ柳田の慎

ると言っても過言ではな

いであろう。しかし、

の問題があったからであ

口の指摘は目を見張るも

ロジェクト」と逗子の30 クト」が共催。 する 「逗子30 sプロジェ 歳代がまちづくりに活躍

の二手に分かれ、すれ違 班と市街地を経由する班 久木中学校前から出発 池子の森を経由する の人が集まる会員制図書 倉ゆかりの本や鎌倉好き

めるサロンです。201 員数がまもなく3百人に 5年8月にオープンし会 塞です。 関する本と年会費1万円 を納めるといつでも何度 でも利用でき、お茶が飲 入会金代わりの鎌倉に

ルの尾渡英生社長のトー みさきさんが監督した映 会を開きました=写真。 前店に70人を集めて交流 タリーズ鎌倉鶴岡八幡宮 写真・映像作家の松井

らも障害者の方々と共に たい」と話した。(K) んによる朗読、世界的な

鈴木章夫)

を問題にしていくのであ けるのは柳田の慎みと変 る。しかし、高砂の翁の 砂の翁や住吉・熱田の翁 せ、「翁舞・翁歌」で高 ように翁と媼とを結びつ ている。

あるのであり、日本人の るのは老女ではなく若い みの問題なのである。 ると同時に、老いと色好 の問題こそ翁論の源流に は老いと成熟の問題であ 感性の根本に潜むものな 女なのである。翁と乙女 のである。老いの問題と 「老人の色好み」という 翁のかげに彷彿と現れ

ている九人の女の子に出 らした。たまたま葉を煮 逢った。とりどりのなま 老翁が春も季の三月、丘 く、花のように美しい顔 めかしさは並ぶものがな に登ってはるばると見晴 は無類である。さて娘子 竹取の翁といった。この

小さな会員制図書室が大きな交流会 (通称カマゾウ)は、 かまくら駅前蔵書室 流の 出演者も会員



なるのを前に4月14日、 じ立場でたっぷり交流を 者も全員が会員という同 ミス・アリスターさん、 さん、バリトン歌手のス 楽しんだ春の夜になりま んな一流の出演者も来場 ラボ演奏などを堪能。そ 荻江節を継承する三味線 オーボエ奏者・吉井瑞穂 奏者の荻江寿慎さんのコ (かまくら駅前蔵書室

として次の話が挙げられ の火をおこしてください かい気分で言うには、 たちは老翁を呼び、から いるものなのである。 「おじいさんおいで、こ 『竹取物語』の先行説話 昔老翁がいて、通称を 『万葉集』巻十六に このこ行って、その席 に着いた。しばらくたっ う」と言った。 と言った。そこで竹取の わせていただきましょ れなれしく近づいた罪 ることも出来ません。な にかかりました。とまど て、娘子たちはみんな は、出来ましたら歌で償 っている私の心はどうす 然に仙女さまがたにお目 は、「思いもかけず、偶 翁は恐縮して言うことに じいさんを呼んだのは」 互いにつつき合って言う は、はいはいと言い、の には、「誰なの、このお 帽ににこにこしながら、

カレンダーの日は推

〈天〉朝からの風に遊 地〉囀りを独りの 宅の様子が伝わる 朝からという時間の指定がよかった。その一日の飛花>
で朝からの風に遊ばれ飛花落花 笛田 上田 満喜 気の磨もきっと 星野、高二十選人

主逝きトランクー (人)すき間なくゆう がせたき亀の沈黙源氏池 悲しい句だが、 いまだ大人兜太天に召す 電鳴くは詩歌に於ける想像。源氏池だからこその作品。 写生句の良さが面白い。雪柳だからこそ見れた。 私も兜太氏には 中七で更に思いが募る。 よくしてもらった。 上五が生きくくと のぎ通しや雪柳 本鵠沼 森田 順子 J囀りで華やかになった。季題の妙。 煙に加へをり 大船 添田 洋子 息曇 金沢区 岩澤 正春 本鵠沼 宗 腰越 松原 智尾 薫

朝日さす桜微睡みる ランドセル背中をあふれ朝桜 近頃の気候変化は 日山の雪解け水の ・二病ありて息災 猫の最期を見取る 吹雪上司と部下 怒や君のメールに キンス名残りの に息つめて 災老いの春 いまつめて はの花筅浴む桶の音のあり が杯交わす **四月馬鹿** 高片森有鳴佐小美爾 田野海藤 道和 冬紀信子 道子孝花政子 一色千穗子小林刀羊子 凰塩 文道和 子宏子 癸

鎌 倉 郭 E) 歌

香山

サービスアンカー 朝日新聞 発刊協力グループ 立

枯すすきは春の芽吹きの中に立つ光も風も過ぎてゆくも のように 新築のアパートの容 「パズルのように 窓にまたひとつ明かりが増えるパズル と譬えた感性が瑞々しい。

★町一一一四

22-32200

小走りに上級生の登 作者の過ぎゆく! **逐を追ふ一年生の黄のランドセル** 時」を惜しむ気持が出ている。 今泉台 下田 和夫 **藤**沢市 青木寿美子

ASA鎌倉中央

長谷一一一九22-1004

バス降りて三浦半島「黄のランドセル」 **曾山の春へ誘う菜の花の道** 」に春らしさがあり情景が見える。 片瀬州 中村

里桜莟は紅しはなびらのほどけゆくほど色薄れゆく 雪捨てに根雪けちらす軽トラのチェーンの轍に雪解水見 思う夕暮 気ゆき生きること急かされるように 逗子市 湊 美根子 岡本鳴海 紀政 城廻塩 田文子

ASA鎌倉深沢

常盤二四七一二

大船二―二二―一六松栄ビル35

38-7322

ASA北鎌倉

蜜蜂の巣のごとき部屋連なりて生徒と対う夜の教室 鈴なくしこつそり 煙る恋の猫われとばつたり朝の玄関 **辻堂** 柳 蒼柳 大船二一二二一一六松栄ビルのF ASA大船西部 ASA大船南部

238−7322

238−7322

46-6068

カルチャーのクラシックバレーのお隣に空手教室勇まし 桑の木の大空せま ひと伸びゐたり梢の間に昼月白む 色目町 出蔵かおる 鵠沼桜が岡 一色千穂子 材木座 有野裕美子 大船二―二二―一六松栄ビル3下 ASA大船中央

ASA 腰越 藤沢市鵠沼藤が谷二―一―二二 0466-7-8716

鎌 倉

朝日

俳壇

ASA藤沢南部 藤沢市鵠沼藤が谷二―一―二二 20466-27-87

ASA藤沢東部 慶沢市弥勒寺三─一二一─

ASA鵠沼東部 0466-21-7409

藤沢市鵠沼海岸二―一一一 10466-3-6924

ASA鵠沼西部 慶沢市鵠沼海岸二─一一 0466-4-6924

1046-871 2368

ASA葉山 三浦郡葉山町堀内一八〇八 **2046-875-0515 1**046-87 6845

横浜市金沢区六浦一一二一一二三 #045-782-2859

★3045-891-0986